

2013年度決算及び2014年度業績見通し

2014年5月8日

三菱商事株式会社

(将来に関する記述等についてのご注意)

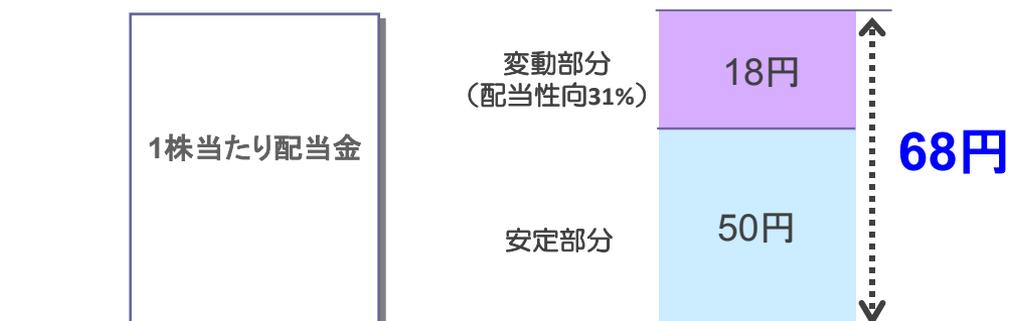
- 本資料にて開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくもので、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予想の達成、及び将来の業績を保証するものではありません。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報および資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

(本資料における留意点について)

- 本資料における「連結純利益」は、非支配持分を除く、当社株主に帰属する連結純利益の金額を表示しております。また、「株主資本」も、非支配持分を除く、当社株主に帰属する資本の部の金額を表示しております。
- 「地球環境・インフラ事業」は、これまで「消去又は全社」に含めてきた「地球環境・インフラ事業グループ」の内、インフラ関連事業に係る損益を表示しております。
- 2013年4月の組織改編に伴い、セグメント別の過去の数値を新組織ベースに組替再表示しております。
- 2013年度連結純利益の概算値(国際会計基準)は、国際会計基準導入に伴い想定される連結財務諸表への影響及び当社において米国会計基準と国際会計基準との差異と認識している項目に基づき、2013年度実績(米国会計基準)の数値を国際会計基準ベースへ組み替えた概算値であります。従いまして後日有価証券報告書で公表する国際会計基準に基づく当社の連結財務諸表の数値と大きく異なる可能性があります。

2013年度決算【米国会計基準】

	2012年度実績 (米国会計基準)	2013年度実績 (米国会計基準)	増減	2013年度業績見通し (2月4日公表)	増減
連結純利益	3,600 億円	4,448 億円	+848 億円 (24%)	4,200 億円	+248 億円 (6%)
1株当たり年間配当	55 円	68 円	+13 円	64 円	+4 円

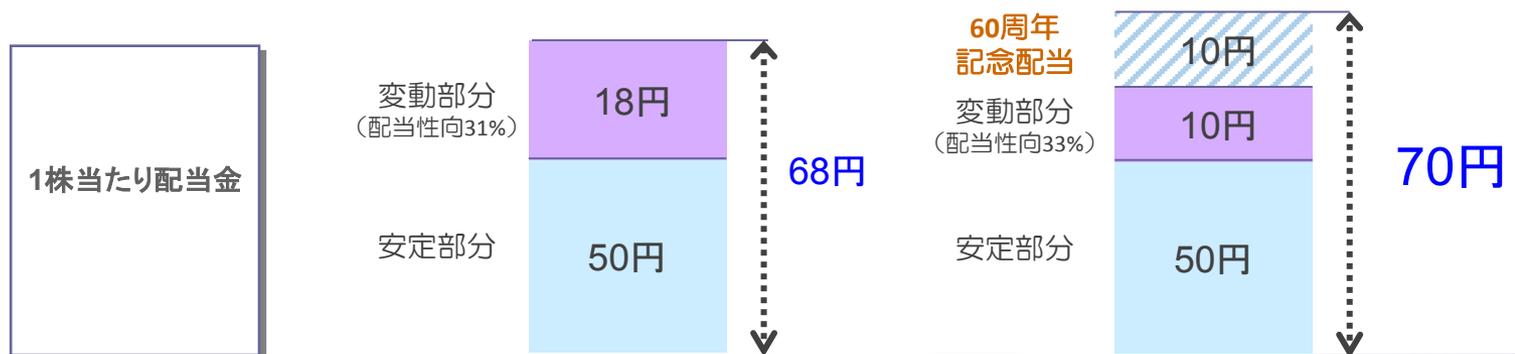


経営戦略2015の配当方針

- ✓ 環境変化に拘わらず一定の配当を行うべく、安定部分と変動部分の二段階の株主還元方針を導入する。
- ✓ 保守的な巡航利益水準3,500億円に基づき安定配当を算定する(50円)。
- ✓ 連結純利益3,500億円を超える部分について、連結配当性向として少なくとも30%の株主還元を行う。

2014年度業績見通し【国際会計基準】

	2013年度概算 (国際会計基準)	2014年度業績見通し (国際会計基準)	増減
連結純利益	約 3,600 億円	4,000 億円	+400 億円 (11%)
1株当たり年間配当	68 円	70 円	+2 円

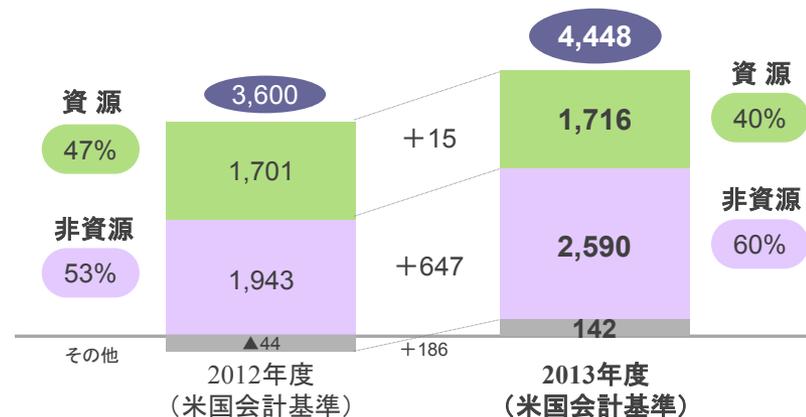


2013年度決算及び2014年度業績見通しのポイント

(億円)

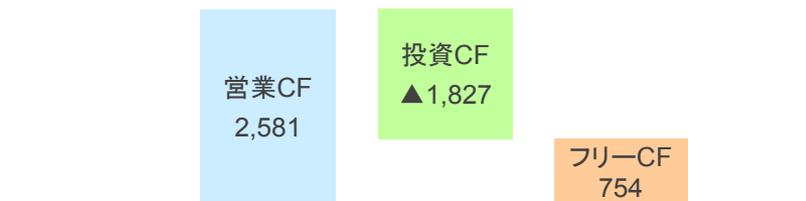
1. 2013年度連結純利益(米国会計基準)

- ✓ 全てのセグメントで前年度比増益を達成。
- ✓ 非資源分野は2,590億円となり、過去最高益を更新。
- ✓ 資源・非資源別の内訳は資源40%:非資源60%。



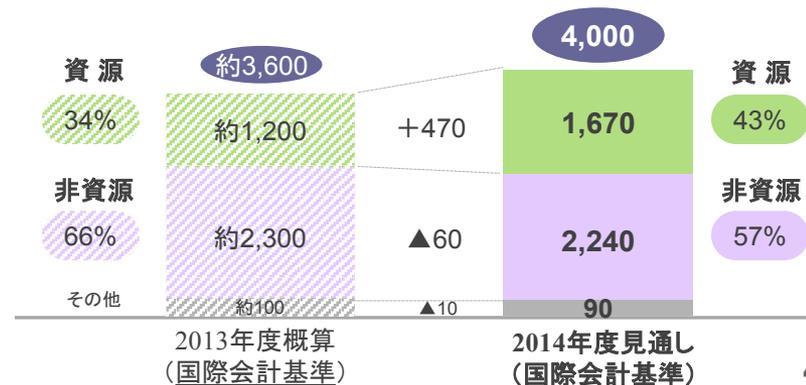
2. 2013年度フリーキャッシュ・フロー(米国会計基準)

- ✓ 営業収入を順調に創出したことに加え、資産の入れ替えを着実に実行したことにより、フリーキャッシュ・フローは754億円の黒字となった。



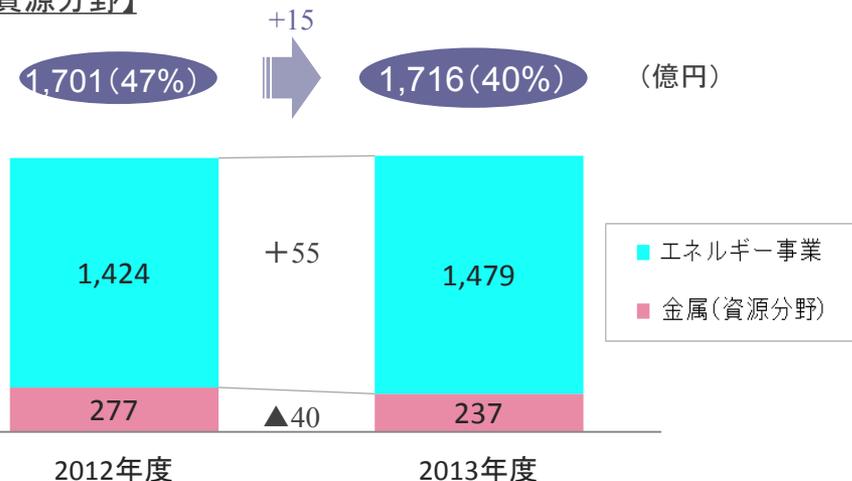
3. 2014年度業績見通し(国際会計基準)

- ✓ 2013年度における資源関連の減損の反動などにより、増益を見込む。



資源・非資源分野別セグメントの前年度比増減

【資源分野】



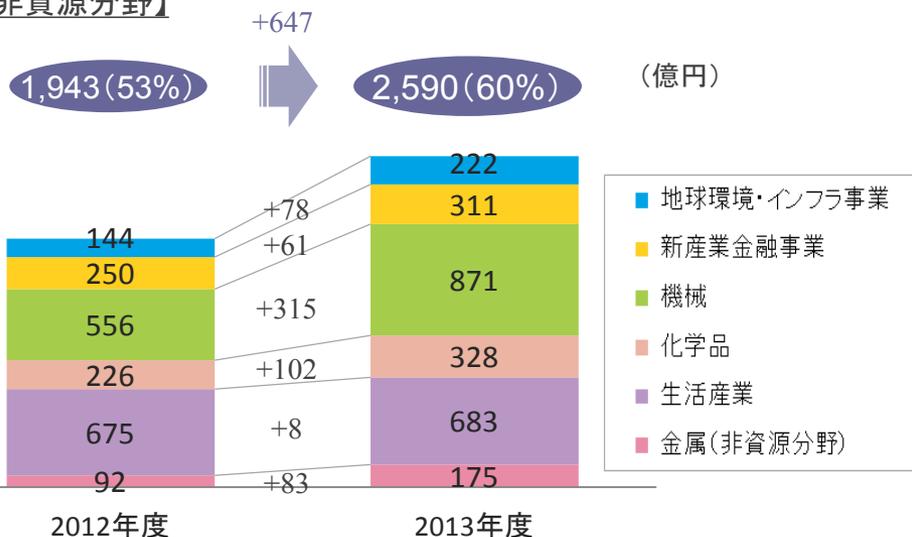
■ エネルギー事業(4%増益)

探鉱費用の増加などがあったものの、株式の売却益や海外資源関連投資先からの受取配当金の増加などにより増益

■ 金属(資源分野)(14%減益)

豪州資源関連子会社(原料炭)の増益などがあったものの、資源関連投資先からの受取配当金や持分利益の減少などにより減益

【非資源分野】



■ 地球環境・インフラ事業(54%増益)

海底送電事業における価格改定に伴う一過性利益計上などにより増益

■ 新産業金融事業(24%増益)

ファンド関連事業や航空機リース関連事業における収益増加などにより増益

■ 機械(57%増益)

前年度における保有船舶減損などの反動や、アジア自動車関連事業が堅調に推移したこと及び円安の影響や資産売却益の計上などにより増益

■ 化学品(45%増益)

株式の売却益計上及び石化事業関連会社における取引利益増加などにより増益

■ 生活産業(1%増益)

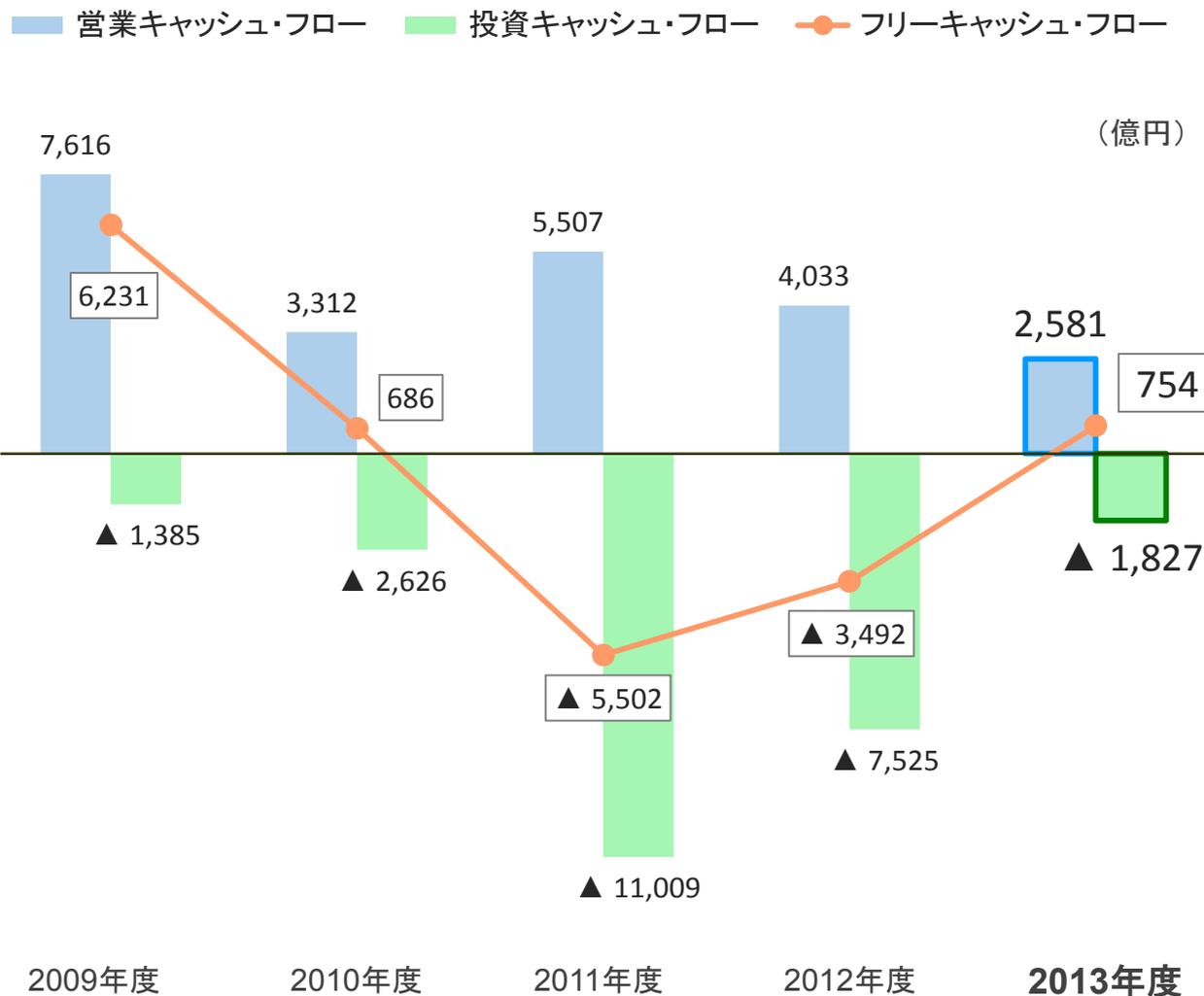
関連投資先の売却に伴う持分利益減少などがあったものの、食料関連事業が好調に推移したことなどにより増益

■ 金属(非資源分野)(90%増益)

株式の売却益計上や前年度における株式減損の反動などにより増益

※ 「金属」の内、鉄鋼製品事業に係る損益を非資源分野としてカウントしております。

キャッシュ・フローの推移



【キャッシュ・フローの状況 2013年度】

- 営業キャッシュ・フロー(2,581億円)
営業活動に係る資産・負債の増減による資金負担があったものの、子会社での営業収入及び資源関連を中心とした投資先からの配当収入があったことにより、資金が増加。
- 投資キャッシュ・フロー(▲1,827億円)
株式や不動産の売却があったものの、金属資源関連子会社による設備投資、エネルギー資源事業や海底送電事業への投資などに伴う支出があったことにより、資金が減少。

新規投資・資産入替実績

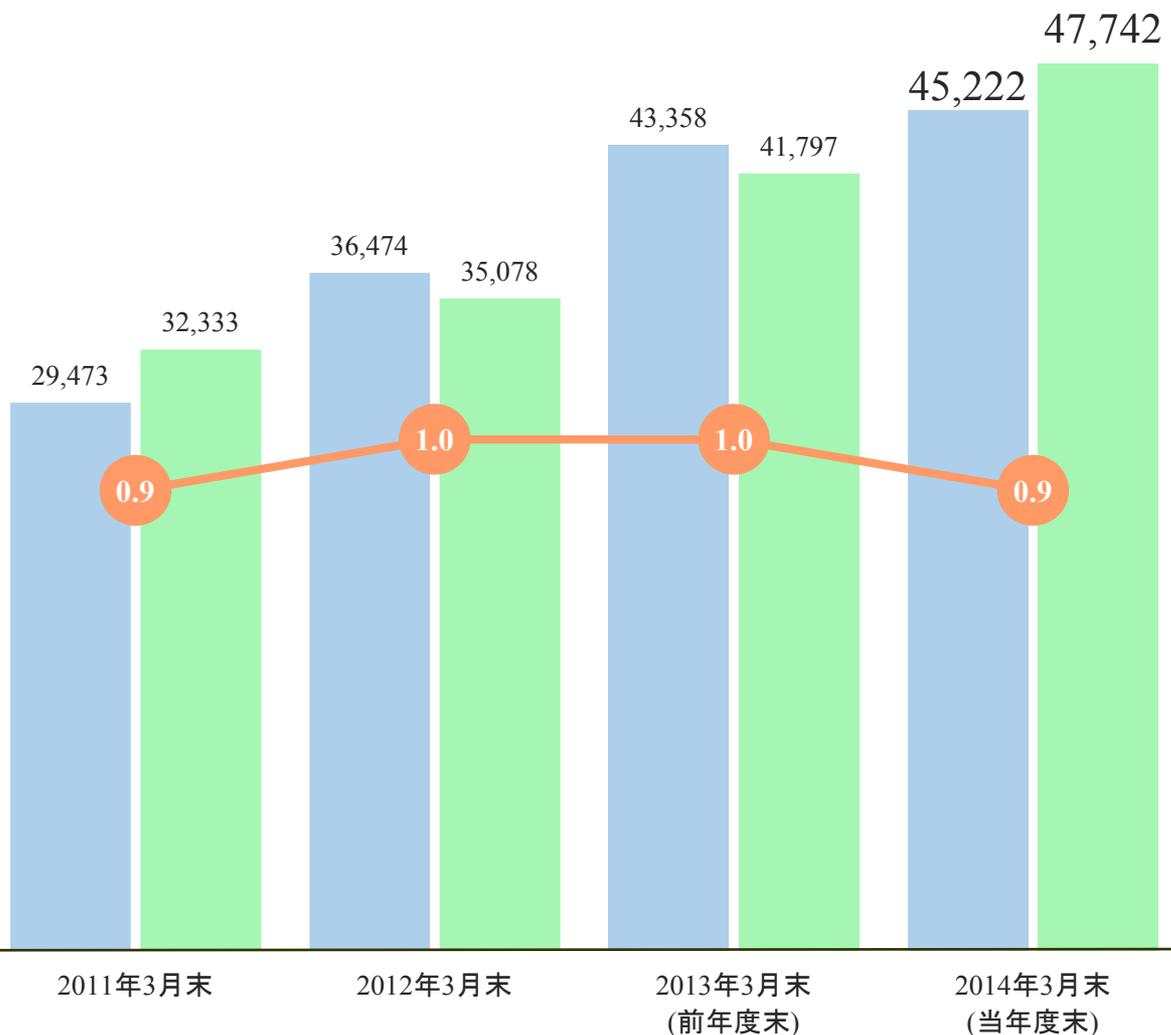
(億円)

		累計				主な案件	
		1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q実績		
新規投資	資源	930	770	920	680	3,300	LNG・シェールガス関連 豪州石炭事業関連 航空機関連リース 船舶事業 海底送電事業 ブラジル穀物会社子会社化
	非資源	1,170	1,430	880	1,220	4,700	
	合計	2,100	2,200	1,800	1,900	8,000	
資産入替	資産売却※	1,400	1,100	800	1,800	5,100	上場有価証券売却 自動車販売金融事業の融資債権売却 航空機関連リース 不動産事業 船舶事業
	減価償却	400	500	400	400	1,700	
	合計	1,800	1,600	1,200	2,200	6,800	
ネット投資額		300	600	600	▲ 300	1,200	

※「資産売却」の金額に、売却に伴い発生した売却損益は含まれておりません。

株主資本と有利子負債の推移

有利子負債(NET) 株主資本 有利子負債倍率(NET) (億円)



【主な株主資本増減要因】(2013年3月末比+5,945億円)

- ① 連結純利益の積み上がり
(+4,448億円)
- ② 為替換算調整勘定の改善
(+2,831億円)
- ③ 配当金支払
(▲989億円)
- ④ 未実現有価証券評価損益の減少
(▲612億円)

【為替換算調整勘定への通貨種類別影響額】

通貨種類	為替換算 調整勘定への 影響額 (概算: 億円)	2013年 3月末 レート	2014年 3月末 レート
米ドル	1,850	94.05	102.92
豪ドル	▲ 200	97.93	95.19
ユーロ	250	120.73	141.65
ポンド	300	143.16	171.31
カナダドル	150	92.58	93.17

2013年度決算の国際会計基準への組替

2013年度実績
(米国会計基準)

2013年度概算
(国際会計基準)

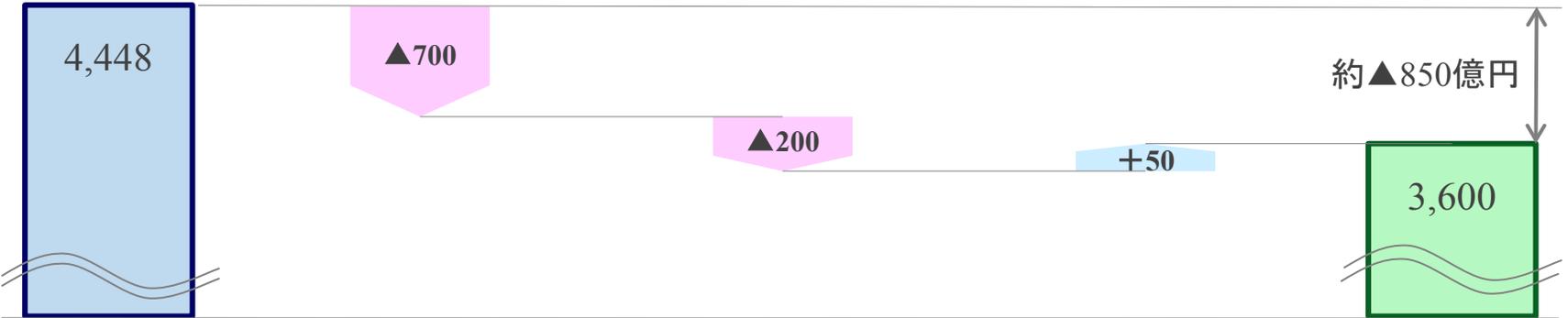
有価証券の調整

償却の調整

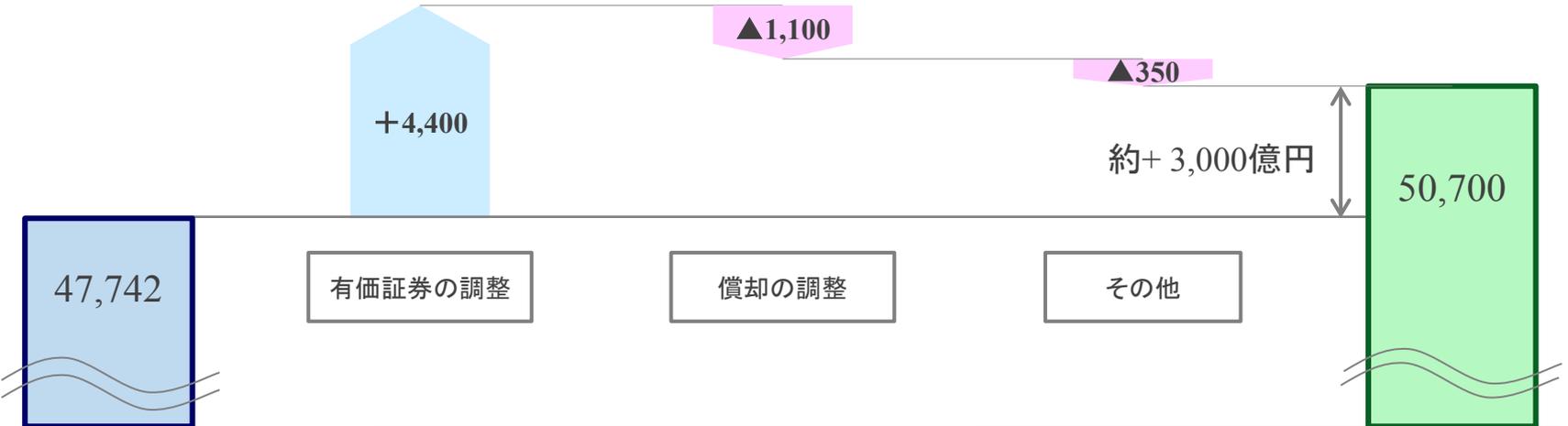
その他

(億円)

連結純利益



株主資本



【参考】市況の状況

【為替・金利・商品市況の状況】

	2012年度 実績	2013年度 実績 (a)	2014年度 業績見通し (b)	増減 (b)-(a)	連結純利益に対する損益インパクト
為替(円/US\$)	82.9	100.2	100	▲ 0.2	1円円安(高)につき年間25億円の増益(減益)インパクト。
円金利(%) TIBOR	0.32	0.23	0.25	0.02	取引利益や投資利益により金利上昇の影響は相殺される部分が相当あるが、金利上昇が急である場合には一時的に影響を受ける。
US\$金利(%) LIBOR	0.37	0.25	0.40	0.15	
油価(US\$/BBL) (ドバイ)	107.1	104.6	100	▲ 4.6	US\$1上昇(下落)につき年間10億円の増益(減益)インパクト。 但し、油価の変動以外にも、連結会社との決算期の違い、販売価格の油価反映へのタイミング、配当性向、販売数量等の要素からの影響も受けるため、油価のみで単純に決定されるものではない。
銅地金(US\$/MT) [¢/lb]	7,854 [356]	7,104 [322]	7,496 [340]	392 [18]	US\$100上昇(下落)につき年間13億円の増益(減益)インパクト。 但し、銅の価格変動以外にも、粗鉱品位、生産・操業状況、再投資計画(設備投資)等の要素からの影響も受けるため、銅の価格のみで単純に決定されるものではない。